

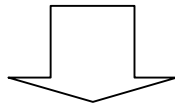
小中連携教育



小中連携教育の必要性

思春期を迎える小学校高学年から中学校にかけては、心身の成長や変化が一生のうちで、最も大きな時期であるとともに、精神的に不安定な時期でもあります。そこで、小学校から中学校の間にある段差を適切なものとし、それを乗り越えるために、小中学校が互いに連携をとった教育を進めることが重要となります。

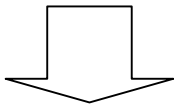
小中連携教育を推進することで、「生きる力」の柱となる「豊かな心」と「確かな学力」を一層はぐくむことができます。



小中連携教育を進めるために

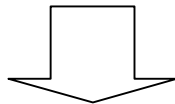
児童生徒が望ましい学校生活を送るためには、小中学校の教師が互いに生徒指導面あるいは学習面での情報を共有し合い、共に児童生徒を育てていこうとする意識をもつことが出発点となります。また、児童生徒が共に活動し、体験を共有する機会を意図的、計画的につくることによって、児童生徒の人間関係づくりを促すことが大切です。そして、それぞれの学校の現状を生かした具体的な方法によって連携し、9年間を見通した教育課程を実践可能な範囲で編成することが望まれます。

小中連携教育の方策 三つの視点



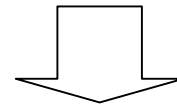
学ぶ意欲を高める交流

- ・ 中学校教師による出前授業
- ・ 小、中合同授業
- ・ 中学生の作品等の学習成果の活用
- ・ 職員相互の授業参観による指導法の工夫
- ・ 学力テスト等の分析と改善についての協議



豊かな心をはぐくむ交流

- ・ 小・中合同授業
- ・ 母校ボランティア訪問
- ・ 手紙による交流
- ・ 小・中連携教育の広報
- ・ 合同ボランティア（地区清掃活動、あいさつ運動、施設訪問）
- ・ 福祉体験活動



夢のある進路を実現する交流

- ・ 先生との出会い
- ・ 先輩との出会い
- ・ 同級生との出会い
（小・小合同授業、里山米作り活動、学校説明会、部活動見学会）
- ・ 吹奏楽部の出前演奏会
- ・ 小学校保護者へ授業公開
- ・ 中学校だよりの掲示

小 中 連 携 教 育 の 実 践

守谷市立大井沢小学校 担当 大竹 伸一

1 はじめに

児童が、小学校から中学校へ進学するにあたり、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で不登校等が増加する、いわゆる「中一ギャップ」が懸念され、小学校から中学校へ進学する際の接続をどのようにしてより円滑なものにしていくかということが課題となっている。

御所ヶ丘中学校区では、この小学校から中学校への円滑な接続を目指し、「継続した指導」に重点を置いた上で実践に取り組んでいる。「9年間で子どもを育てる」という意識のもとに、学校間の情報の共有化を図りながら取り組みを行っている。ここでは、その実践例を以下に述べる。

2 実践（御所ヶ丘中学校および3小学校での交流）

（1）御所ヶ丘中学校区「引き渡し訓練」（1学期）

各学校の実態をしっかりと把握し、引き渡し順序や時間、避難の経路等を調整・確認した上で訓練が実施された。この訓練により見えてきた課題から、今後の方向性を4校でしっかりと認識する機会となった。



（2）里山における「3小学校連携米作り」（1学期～2学期）

御所小、松前台小、大井沢小の5年生合同による米作りを毎年実施している。立沢里山の方々の協力により、田植えや定期的な田んぼの整備（草刈り等）、そして稲刈り体験を、3小学校の児童が一緒に行っている。児童の交流の場を設けることで、中学校入学後のスムーズなスタートにつなげる機会としている。収穫したお米は、秋に行われた「ワイワイおおいさわ」でおにぎりとして販売され、収穫の喜びを保護者とともに味わうことができた。



（3）御所ヶ丘中学校吹奏楽部演奏会（1学期）

2年に1度開かれる演奏会が、今年度実施された。

演奏会では、パート毎の楽器紹介があり、普段なかなか見ることのできない楽器を目の当たりにすることができ、子どもたちは演奏曲とともに、その楽器の音に聞き入っていた。演奏ばかりでなく、中学生の部活動に対する姿勢や返事の仕方なども小学生の良き手本となっていた。



（4）御所ヶ丘中学校区「情報交換会」（2学期）

小中学生の連携事業の他に、4校職員による情報交換会が実施された。

小学校は6年担任を、そして中学校は各学年主任を中心として話し合いが行われ、各学校の生徒指導の現状について意見交換をした。

子どもたちをつなぐ連携事業を実施していく上で、まずは職員の連携を図っておくという意味からも大きな意義をもつ事業のひとつであると考えている。

（5）御所中の先生による「出前授業」（2学期）

6年生を対象に、数学の授業（1クラス1時間）を実施していただいた。中学校の教科書にある問題を、小学校で学習した方法で解く授業であったが、いつもとは違う緊張感の中で、楽しみながら中学校の授業の雰囲気味わう機会となった。



(6) 母校ボランティア「里帰りの会」(2学期)

中1生が母校に戻って、小学1・2年生や6年生と交流を図る「里帰りの会」を今年度も実施した。

1・2年生は、算数の学習において交流を図った。中学生は小グループに分かれて各教室に入り、個別の指導やかけ算九九検定の学習ボランティアを行った。小学生は楽しみながら積極的に学習に取り組み、中学生は弟や妹の面倒を見るように笑顔でやさしく交流するなど、ほのぼのとした雰囲気の中での活動となった。学習後の小学生の感想を聞いてみると、「とっても分かりやすかった。」「もっとやりたかった。」等、交流学習の中学生効果が早速表れる結果となった。

6年生は、中学校生活についての情報交換会を実施した。学習面では、実際の教科書等を提示しながらの説明があった。また、生活上の注意や部活動の紹介では、中身の濃い情報交換を行うことができた。6年生からは、「早く部活をやってみた。」との声が聞かれ、中学校生活に対する不安が、少しでも軽減されたのではないかと感じた。

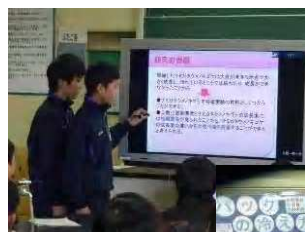


(7) 中学校入学説明会・部活動見学(3学期)

6年生児童とその保護者を対象に行われた入学説明会では、御所ヶ丘中学校生徒会を中心とした学校紹介があり、中学校の生活のきまりや学習の内容等について詳しく知る機会となった。

特に、クラス男女ごとに行った部活動の見学は、それぞれの部活の練習を熱心に見学したり、中学生との交流を楽しんだりすることができた。

学校に戻ると、特に印象に残った部活動の話題で盛り上がるなど、中学校入学への期待を膨らませる子どもたちの姿が数多く見られた。



3 考察

6年生においては「中一ギャップ」が懸念される中、意識的に中学生や他の学校の小学生と交流をもつことで、いくつもの新しい発見ができた。たくさんの交流、そして連携事業の体験の中から、中学校生活に対する不安を少しずつ軽減していくことができたのではないかとと思われる。

また、6年生に限らず、他の学年の子どもたちが中学生と交流することは大変有意義であり、9年間を見通したこれからの小中連携・小中一貫教育の基礎になるものと感じている。

4 課題

複数の小学校が1つの中学校へ進学する御所ヶ丘中学校区において、小中連携を充実させていくためには、小中のみならず、中学校区の小学校間における小中の連携を十分に図った上で、小中の連携を考えていくことが重要である。また、充実した連携を実践していくためには、学習指導や生徒指導の基本を、9年間をひとつのスパンとして捉えた計画を編成していく必要があると感じた。この計画を編成するためには、連携・一貫教育の中での主眼をどこに置くかをはっきりと見極め、綿密な計画を立てていかなければならない。

小中連携教育の実践

守谷市立大野小学校 担当 岡崎 芳文

1 はじめに

子どもたちが小学校から中学校への進学する段階において、学習や生活の環境が大きく変化し、不登校や問題行動の増加するなど「中1ギャップ」の問題が今も指摘されている。このような課題の解決を図るとともに、連続した学習を成立させ子どもたちに生きる力を確実に身に付けさせるためにも、小・中学校9年間を見通した指導が大切である。小学校から中学校へ子どもたちが戸惑うことなく進めるように、教師が学習や生徒指導における課題を共有したり、児童生徒の交流を進めることは大変重要であると考えます。

2 実践

月 日	内 容
月例の教育課程研修会にて	小中連携会議
6月 5日（火）	守谷中学校区小中連絡協議会 ・中学1年の元担任による中学校の授業参観
1月29日（火）	守谷中学校25年度入学予定者説明会 ・児童、保護者対象の説明会、部活動見学
2月14日（木）	生徒指導研修会 ・生徒指導上の情報交換
1月 ～ 3月	美術作品の展示 ・守谷中学校美術部生徒の絵画作品を展示
3月22日（金）	平成25年度新入生引継事務 ・新入生についての事務引き継ぎ

(1) 守谷中学校区小中連絡協議会

6月に守谷中学校区小中連絡協議会が守谷中学校で行われた。小学校の昨年度6年生担任が中学校に集まり、中学1年生の授業を参観した。卒業した子どもたちがどのような表情で授業に取り組んでいるのかを見ることができた。また、休み時間には、担任していた子どもたちと交流することもでき、中学校での生活の様子など、たくさん話を聞くことができた。

授業見学後に、小・中学校の教員で情報交換を行い、それぞれの課題とすることや指導方法等について意見を交換した。特に生活指導や学習指導については、小・中それぞれの指導の仕方に若干ながら違いが見られ、連続した指導の在り方について考える貴重な機会となった。また、今年度においてどのように小・中の連携を進めていくかについても話し合った。

(2) 守谷中学校 25 年度入学予定者説明会

6 年生及び保護者が中学校へ行き、それぞれを対象に守谷中学校についての説明会が行われた。

子どもたちを対象にした説明会では、生徒会が中心となってスライド等を使いながら中学校生活についての説明が行われた。説明の中に英語をたくさん取り入れたり、小学生からの質問や感想も英語で話すなど、独自性の高い説明会であった。また、中学 3 年生による合唱の発表があり、その素晴らしさに子どもたちは驚くとともに、上級生への尊敬の気持ちをもったようである。

説明を聞いた後、部活動を見学した。実際に中学校の上級生や部活動に触れ、中学校生活への興味・関心が高まったようである。事後の感想を見ると、中学校進学への不安が少なくなり、逆に期待が大きくなった児童が多く見られた。中 1 ギャップという課題の解決につながる、有意義な取り組みであった。



(3) 美術作品の展示

今年度は、小・中交流の一つとして、守谷中学校美術部の作品を小学校に展示した。今回は 6 つの作品を廊下や階段の踊り場に展示したところ、足を止めて作品に見入っている児童が多く見られた。中学生の作品の素晴らしさを感じることができたようである。また、書き方や色の塗り方など参考となることが多く、「真似して描いてみたい」という声がたくさん聞かれた。高学年の児童にとっては中学校生活に期待を膨らませるきっかけとなった。今後も継続していきたい取り組みである。



(4) 「家庭学習の手引き」の活用

小中連携事業で作成した「家庭学習の手引き」を継続して活用した。積極的に家庭学習に取り組む子どもが増えてきている。学習の仕方について 9 年間を見通した、発達段階に応じた指導を進めていきたい。

3 成果と今後の課題

小・中で連携した取り組みにより、子どもたちは中学校生活への不安を減らし、期待を膨らませることができたように感じられる。中学生の作品に触れたことも、子どもたちは中学校を身近なものに感じることはできた。

しかし、今年度もそれぞれの学校の都合が合わずに、連携した取り組みが計画通りにできなかったこともあった。また、現在実施している交流以外にも授業研究や学習における課題の分析、共有など、様々な範囲に連携を広げていくことも考えていかななくてはいけない。情報交換をさらに密にし、充実した連携を進め、確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育てていけるように取り組んでいきたい。

小中連携教育の実践

守谷市立高野小学校 担当 中村 正行

1 はじめに

6年生の多くの児童は、中学校の生活に漠然とした不安を抱いている。小中連携教育では、「中1ギャップ」の克服を目指し、児童と生徒が直接交流できる場を設定している。具体的な活動を通して中学校の生活や様子が分かるように配慮し、卒業を控えた児童が、中学校生活への不安や悩みを軽減することを目的としている。児童一人一人が、大きな夢と希望を持って卒業・進学ができるように小中連携の取り組みをさらに強化し、充実させていきたい。

2 実践活動

(1) 小中合同あいさつ運動 ～マナーアップ推進事業から～

- ア 日時 第1回小中合同あいさつ運動 6月25日(月) 7:50～
第2回小中合同あいさつ運動 10月29日(月) 7:50～
第3回小中合同あいさつ運動 1月21日(月) 7:50～
- イ 場所 高野小プール側の門付近
- ウ 参加者 中学校：けやき台中生徒会役員、けやき台中職員
小学校：本校校長、生徒指導主事、通学班担当職員、児童会運営委員、ボランティア委員、希望参加児童
- エ 内容 中学生とともに、登校時に校門付近で明るいあいさつ運動に取り組んだ。



(2) けやき台中学校区小中連絡会（生徒指導情報交換会）

- ア 日時 6月18日(月) 13時30分
- イ 内容 ・授業参観 及び 連絡会
・参加者： 生徒指導主事、旧6年担任

(3) 母校訪問ボランティア交流活動

- ア 日時 11月27日(火) 5・6校時
- イ 内容 ①けやき台中学校1年生が母校である本校を訪れ、6年生と一緒にボランティア清掃を行った。



②卒業生の「中学校生活を語る」で、中学校生活の概略と部活動の紹介をグループ発表してもらい、相互の交流と親睦を図った。

(4) けやき台中学校・吹奏楽部の出前演奏会

- ア 日時 7月12日(木) 5・6校時
イ 会場 体育館
ウ 内容 ・中学生吹奏楽部の演奏を本校児童が鑑賞した。
・参加学年: 4～6年生



(5) けやき台中学校・入学説明(並びに学校見学)会

- ア 日時 1月25日(金) 14:00～15:30
イ 内容 ・本校6年生が中学校に行き、学校紹介や部活動の見学を行った。
・新入生保護者対象の説明会を同時に実施した。



(6) 職場体験活動の受け入れ

- ア 日時 12月5日(水), 6日(木)
イ 内容 ・けやき台中学校の2年生7名が職場体験活動を実施した。1年生から6年生までの各学級で、児童と一緒に遊んだり教師の手伝いをしたり、児童に勉強を教えるなど、2日間小学校の教師の仕事について体験した。



3 成果と課題

成果としては、中学生が優しく小学生を導く姿が随所に見られ、児童が中学生と直接ふれあうことで、中学校の様子や雰囲気を感じることができ、部活動や新しい学校生活への意欲や期待をもつ機会となっている。また、ボランティア清掃活動や交流会を通して、中学生の素晴らしさや人間的な優しさに触れることができ、進学することへの不安を和らげることができている。

今後の課題としては、交流活動の企画や運営面だけでなく、学習面においても「9年間で地域の子どもを育てる」という視点から、工夫・改善を図り、さらにより良い取り組みができるようにする。今年度、初めて小中合同の引き渡し訓練を実施したが、安全面での小学校と中学校間の連携を充実させていきたい。

小中連携教育の実践

守谷市立守谷小学校 担当 石塚 行男

1 はじめに

小中連携教育の重要性が叫ばれ、つくば市のように小中一貫教育に取り組む自治体もある。守谷市においても新年度に向け、小中の連携をさらに進めて行く方向である。「中1ギャップ」の言葉が表すとおり、小学校から中学校生活へのスムーズな移行が十分に出来ていない現実がある。本校の児童のなかにも、中学校生活に漠然とした不安を抱いている児童は多い。「中1ギャップ」の克服のために、児童・生徒の交流活動を通して、小中学校間の接続の円滑化を図りたい。

2 実践

活動名	実施日・場所	活 動 内 容
計画訪問授業参観	5月23日（火）	・本校の計画訪問に守谷中、愛宕中の職員が授業参観に来校
守谷中学区小中連絡会	6月5日（火） 守谷中学校	・昨年度6年担任が授業参観。 ・新入生の現況と申し送り。
愛宕中学区小中連絡会	6月14日（木） 愛宕中学校	・昨年度6年担任が授業参観。 ・新入生の現況と申し送り。
母校ボランティア 新校舎への引っ越し協力	8月6日（月） 守谷小学校	・昨年度の卒業生が新校舎への引っ越しのお手伝いを行った。旧校舎の図書室から新校舎の図書室へ本の運搬作業を手伝った。
守小まつりへの協力	11月3日（土） 守谷小学校	・愛宕中学校の吹奏楽部の生徒が「守小まつり」において、演奏を披露。本校の3年生以上の児童が鑑賞した。
計画訪問授業参観	11月15日（木） 愛宕中学校	・昨年度6年担当が中学校の計画訪問の授業を参観。
中学校説明会 （授業参観・部活動見学など）	1月29日（火） 愛宕中学校	・体育館において生徒会役員の進行で学校紹介等の説明を聞く。 ・グループに分かれ、生徒会役員による案内で、1年生と2年生の授業参観、部活動見学、施設見学など。
	1月29日（火） 守谷中学校	・コミュニティホールにて英語での学校紹介、英語での質疑応答、守谷中3年生の合唱発表。 ・グループに分かれての部活動見学。

< 母校ボランティア 新校舎への引っ越し協力 8 / 6 >



< 守小まつり 11 / 3 >



< 新入生説明会 守谷中学校 >



< 新入生説明会 愛宕中学校 >



3 成果と課題

- ・新校舎建設に伴う引っ越し作業に、母校ボランティアとして、守谷中、愛宕中の1年生が参加することで、母校意識の高まりやが感じられた。
- ・守小まつりにおいては、愛宕中の吹奏楽部の生徒による演奏が行われ、活動の様子を身近に感じるとともに中学校の部活動に期待を持つことができた。
- ・新入生説明会に参加し、中学校の様子や先輩の様子を直接見たり感じたりすることで、安心感を持つことができた。
- ・本校児童と中学校生徒との交流の場面は、まだまだ少ない。これからは、授業面での交流などより緊密に連携が図れることをめざしたい。

小中連携教育の実践について

守谷市立黒内小学校 教諭 殿岡 秀一

1 はじめに

小1ギャップ、中1ギャップの問題を背景に、それぞれの連携の強化が重要視されている。保幼小の連携・小中との連携ともに実践を重ねながら、改善を図っていかなければならない問題である。生活のリズムや学習内容が変わることで、大きく飛躍するチャンスでもあるが、それぞれの接続がスムーズになるように配慮も欠かせない。本年度もこれらのことを目標として以下のような取り組みを実践した。

2 実践事業の実際

(1) 守谷中学校との小中連携事業

活動名	教科領域	実施日 場 所	活 動 内 容
小中連携事業準備会		教育課程研修会の開催される日 (月に1回)	・大野小、黒内小、守谷中の教務主任により情報の交換と小中連携事業の実施計画案を作成する。
守谷中学校区小中連絡協議会		6 / 5 (火) 14:00 ~ 16:30 守谷中学校	・守谷中第1学年の授業参観を行った後、大野小、黒内小の旧6学年関係職員と守谷中第1学年職員による情報交換を行う。
守谷中美術部によるワークショップ	特別活動	11 / 17 (土) 黒内小学校	・本校黒内まつりの体験コーナーの一つとして守中美術部員の指導によるスイーツデコと題した、食品サンプルづくりを企画。小学生のグループに美術部員数名で指導を行う等積極的に活動を進めてくれた。



新入生中学校説明会 ・英語による説明会 ・守谷中生徒による合唱	総合的な学習の時間	1 / 29 (火) 13:30 ~ 16:05 守谷中学校	・他小学校と生徒会役員による、守中学校の目標や生活のきまり・学習についての説明会に参加。 ・新入生と保護者共に、守中生徒による合唱を聴いたり、英語による学校生活に関する説明会に参加したりして中学校の雰囲気や生活のようすについて知ることができた。
---------------------------------------	-----------	--------------------------------------	---



守谷中学校美術部巡回展	1 / 16 (水) ～ 3 / 22 (金) 黒内小図工室	・守谷中学校美術部生徒の作品をお借りして図工室に展示している。児童たちは、作品の迫力に圧倒されながらも、「中学生になるとこんなすばらしい作品が描けるんだ」とか「〇〇ちゃんのお姉さんの絵だよ」など、高い関心をもって鑑賞できた。中学校の活動の紹介にはとてもよい効果が得られた。
-------------	--	--



(2) 土塔中央保育所との保小連携事業

土塔中央保育所の年長児と黒内小学校1年生が合同学習会を実施した。生活科「もうすぐ2年生（年長さんをむかえよう）」の単元（14時間扱い）で3学期に2時間、学校紹介やプレゼント、ゲーム等を行い楽しく交流を図った。



3 おわりに

小中連携では、中学校訪問が3学期に1回実施された。英語による学校説明や文化祭での合唱コンクール優勝クラスの発表があるなど、中学生になるとこんなことができるようになるのかなといったイメージが持ちやすかった。中学校の雰囲気も体感できたように思われる。さらに、本年度よりはじめた、中学校の作品展示会が好評で、絵の見事さもさることながら身近なお兄さんお姉さんが描いたものを見ることで、将来への自分の可能性も感じ取っていたようである。

保幼小連携では、学校紹介やゲームを通しての交流が主であったが、小学校や小学生へのイメージを持たせることには、有効であったと思う。

今後の課題として、小中連携ではボランティア活動などの行事や、総合的な学習の時間、生活科など教科内容の検討をしたり、連携できる場面の開発にも目を向けていきたい。保幼小連携では、大きな取り上げ方のみではなく、もう少し簡単にできる取り組みを追加することも検討したい。さらに公立の保育所だけでなく、入学者の多い私立幼稚園との交流なども考えていきたい。

小 中 連 携 教 育 の 実 践

守谷市立御所ヶ丘小学校 担当 大塚 和浩

1 はじめに

小中連携教育は、児童・生徒の交流活動を通して、小学校から中学校への移行期の指導がスムーズにし、「中1ギャップ」の克服や小中学校間の接続の円滑化を図ることをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、今年度も、交流を通して児童一人一人に確かな学力や豊かな人間性などの「生きる力」を育むと共に、児童に今まで以上に夢と希望をもって中学校に進学することができることを目標に小中連携教育を取り組んできた。

2 実践

(1) 体験授業 6月5日 【理科授業体験】 御所ヶ丘中学校

本校は御所ヶ丘中に隣接しているということから、6年生児童が中学校へ直接出向き、理科（人工いくら作り）の授業を体験した。説明を受けた後、実際にグループごとに人工いくらを作った。いろいろな色の人工いくらを作り、作ったいくらは自分が持って行った容器に入れ、いただけてきた。児童は興味を持って授業に参加できた。実際に中学校で授業を体験したことにより、上級学校へのあこがれや中学校での学習への関心もより高まった。



(2) ごしょまつりでの吹奏楽部演奏 11月3日 御所ヶ丘小学校

小学校のごしょまつり（文化祭）に御所ヶ丘中学校の吹奏楽部による開会式での演奏を児童と保護者で鑑賞した。場が盛り上がり、楽しいひとときを過ごすことができた。中学生としての活躍の場があることが認識でき、中学校の部活動への興味と関心が高まった。



(3) 里帰り母校ボランティア 11月22日 御所ヶ丘小学校

本校卒業生と6年生で母校ボランティア活動を行った。5時間目は、1年生の体育の授業（なわとび）と2年生の算数（九九）の授業に学習支援ティーチャーとして入ってもらった。中学生がとても丁寧に小学生に寄りそって接してくれ、小学生もうれしそうであり、意欲的に取り組み、活動量も高まった。6時間目は、6年生との交流で中学校生活についての質問会を行った。卒業生の話を聞いたり、質問したりすることにより小学生にとっては、大変有意義な時間となった。また、昨年まで共に生活していた中学生との交流で中学校生活をより身近なものに感じることができた。



(4) 中学校新入生保護者説明会 1月25日 御所ヶ丘中学校

6年生と担任、保護者が一緒に参加して行われた。体育館での説明後に、部活動見学が行われた。直接見て説明を聞き、部活動では体験をし中学校生活に興味と希望が持てたようである。



(5) 中学生のレポート・作品展示

4月に中学生の総合的な学習の時間のレポートを展示した。

(6) 中学校公開日見学

中学校の学校公開日に、6年生の児童の保護者が授業参観し、中学校の様子を見学した。

(7) 教員相互による授業参観

小学校の計画訪問に際し、御所ヶ丘中の先生方が小学校の授業を、また中学校の計画訪問に際し、本校職員が御所ヶ丘中の授業を参観した。

3 考察

- ・中学校での体験授業や里帰り母校ボランティア、新入生保護者説明会において、小学生と中学生がふれあう場を設け実践した結果、6年生が中学校への関心や希望をより高めることができた。また、中学校の学校公開日や新入生保護者説明会への参加を通じて、児童だけでなく保護者からも小中学生の兄弟姉妹間の親近感も深まったとの声も聞かれ、中学校進学への不安感の軽減にもつながった。
- ・里帰り母校ボランティアの活動では、昨年まで一緒に過ごした先輩方の成長した姿を見て、一緒に活動しながら話をすることができたことで、中学校進学に対する不安も軽減した。また、中学生は久しぶりの小学校でお世話になった先生方に会ったり、小学生とふれあったりすることで、中学生にとっても心が和む時間となった。

4 課題

小中連携事業は単なる交流ではなくて、児童・生徒の交流活動を通して、中1ギャップの克服や不登校生徒の減少、児童・生徒の一人一人に確かな学力や豊かな人間性などの「生きる力」の育成につながっていかなくてはならない。昨年度に引き続き、市の計画訪問に合わせた小中学校間の教員相互の授業参観では旧6年担任が参観し卒業生の成長を感じ取ることができた。ただ授業等の関係でなかなか多くの職員が参観することはできなかった。今後は児童・生徒だけの交流だけでなく職員同士の交流も図り、お互いの学校教育の理解に努めるなど、今後の小中連携事業の在り方を見直し工夫していく必要がある。

小中連携教育(保幼小含む)の実践

守谷市立郷州小学校 担当 長沼 淑人

1 はじめに

子どもたちに確かな学力と豊かな心をはぐくむためには、小学校と中学校という単位で捉えるのではなく、義務教育9年間を見通した子どもたちの発達段階に応じた、きめ細かな系統性と継続性のある学習指導と生徒指導に取り組むことが求められている。

そこで、小学校から中学校の間にある段差（ギャップ）を適切なものとし、それを乗り越えるために、本校では、「愛宕中学校」との教師間の連携、児童生徒の交流活動を通して、小中間の接続の円滑化を図っている。

また、小中間ばかりではなく、「みずき野幼稚園」との交流を行っており、その他の保育園や幼稚園とも情報交換の機会を持っている。

2 愛宕中との連携の実践

活 動 名	実施日・場所	活 動 内 容
出張授業	6月 5日 郷州小学校	・愛宕中学校の内田先生に2年1組で音楽の授業をしていただいた。
愛宕中学校区 小中連絡会	6月14日 愛宕中学校	・昨年度6年担任による授業参観 ・新入生の現況と情報交換
愛宕中学校生徒 職場体験学習	7月23日～ 25日 郷州小学校	・5名の中学生が職場体験活動を行う。 ・学びの広場(4～6年)での学習補助 ・プール清掃や環境整備などの職員作業
吹奏楽部・金管バンド 合同練習会	8月24日 郷州小学校	・楽器ごとに分かれての練習及び合同演奏 ・吹奏楽部顧問からの指導
中学校区合同引渡訓練	9月 1日 各学校	・時間設定等の事前打合せ ・事後に引き取り状況等の情報交換
計画訪問授業参観	6月26日 11月15日	・各校でそれぞれの計画訪問時の授業を参観
愛宕中学校入学説明会 (授業参観・部活動見学)	1月29日 愛宕中学校	・生徒会役員の進行で学校紹介等の説明を聞く ・グループ毎の授業参観、施設見学、部活動見学

(1) 職員間での情報交換と交流

- ① 年度当初の教務主任会において、平成22年度から継続して行っている、互いの学校の学習のきまりや生活のきまり、児童生徒の諸問題について再度確認し、変更・改善点などの情報を交換し合った。
- ② 愛宕中第1学年の授業参観を行った後、守谷小、郷州小の旧6学年関係職員と愛宕中1学年職員による情報交換を行った。
- ③ 互いの学校の「教育委員会による訪問指導」の際に、職員を派遣し合い、授業の様子を参観した。
- ④ 愛宕中音楽担当の内田先生に、2年1組で音楽「音の高さに気をつけて歌おう」の授業をしていただいた。子どもたちは内田先生のオルガンの音をしっかりと聴き、体で音の高さを表現しながら楽しく学習した。

(2) 児童・生徒の交流活動

- ① 本校金管バンドと愛宕中学校吹奏楽部との合同練習
本校では5・6年生の希望児童からなる金管バンド部では、例年、夏休みは最終週に練習を行い、その中で、愛宕中学校吹奏楽部を招き指導を受けている。本年度も8月24日に合同練習会を実施した。各楽器ごとに分かれて、中学生から直接指導を受けたり、模範演奏を聴かせてもらったりした。また、愛宕中吹奏楽部顧問の先生方からも丁寧な指導をいただいた。



- ② 「GOGO郷州」のハッピー集会における愛宕中学校吹奏楽部との交流

本年度は創立30周年記念式典のため交流はできなかったが、来年度は昨年同様に発表を依頼し、本校金管バンド部との合同演奏を披露してもらう計画である。

③ 愛宕中学校生徒の職場体験学習

今年度は7月の夏休みに愛宕中学校生徒職場体験の受け入れを行った。愛宕中学校の5名の生徒が、本校で2日間に渡り職場体験活動を実施した。5名の生徒は、夏休み前半の学びの広場(4～6年対象)に参加し、児童の質問に答えたり、進んで学習の補助に入ったりと熱心に取り組んでいた。

また、校内環境の整備や清掃などの職員作業にも、積極的に取り組んだ。



(3) 中学校入学説明会でのオリエンテーション、授業・部活動参観

例年、中学校入学説明会の中で、生徒会役員による6年生・保護者を対象にした「学校紹介・中学校生活について」のオリエンテーションや授業・部活動参観を実施してもらっている。中学校での行事や学習の様子、部活動などについて事前に話を聞くことで、6年生にとっては、進学への不安が軽減され、中学校生活への期待感を深めることができた。

3 みずき野幼稚園との交流活動及び保幼小連携

隣接する「みずき野幼稚園」とは、例年「ハロウィンパレード」や年長児による「学校見学」等を行っている。

今年度は更に、来年度6年生と1年生の関係になる本校5年生と年長児の交流を計画し実施してきた。

(1) 園児・児童との交流活動

① ハロウィンの飾りづくり<10月17日>

5年生がみずき野幼稚園を訪問し、ハロウィンに向けて教室の飾りづくりを園児とともにに行った。幼稚園の先生から作り方の説明を受けた後、園児の活動を支援するような形で交流することができた。5年生は常に園児に声かけしながら活動に取り組んでいた。



② ハロウィンパレード<10月25日>

幼稚園の行事として、ハロウィンパレードに仮装した園児たちが、本校の昼休みに、校舎前をパレードした。校門では飾りづくりで交流した5年生が園児を出迎え、一緒にパレードに加わった。かわいらしいパレードの様子を他学年の児童や職員が見学し、拍手を贈りながら見送った。

③ ふれあい交流会の実施<11月28日>

みずき野幼稚園の年長児39人を招待し、5年生が交流会を開いた。5年生は準備段階から、相手が年長児であることから、劇やお祭りの内容についてわかりやすく伝えることを意識して準備を進めた。当日は、園児、5年生ともに楽しむことのできる交流会となった。



④ 学校見学<2月20日>

みずき野幼稚園の年長児に、本校1年生が郷州小学校の学校紹介を行った。写真を見せながら学校生活の様子や1年生の学習、学校行事についてわかりやすく説明することができた。また、大きな声で校歌を歌って園児に発表するなど、1年間での大きな成長を感じさせる活動であった。1年生の説明後は、特別教室を中心に学校探検を行った。

(2) 保幼小連携

2月下旬から3月上旬にかけて、保育園・幼稚園の先生方との連絡会を行い、来年度小学校に入学してくる子どもたちを迎え入れる体制を整えている。

4 課題

児童・生徒、児童・園児だけの交流にとどまらず、今後は職員同士の交流を図りながら、互いの学校教育の理解に努め、ともに児童生徒を育てていく意識をもち連携を深めていきたい。

また、中学校卒業時の目指す子ども像について共通理解を図るなどして、幼児期から中学校9年間の成長、発達を見通した教育を目指していきたい。

小中連携教育の推進

守谷市立松前台小学校 教諭 川崎 健男

1 はじめに

現在、県内で様々な小中一貫教育への取り組みが行われてきている。御所ヶ丘中学校区を中心とした北守谷地区4校の小中連携の取り組みも10年目を迎える。「中1ギャップ」と呼ばれる現象に歯止めをかけ、小学校から中学校へ滑らかな接続が図れるよう、児童・生徒の交流及び教職員の連携・情報交換、美術作品の展示や総合的な学習の時間に作成したレポートの回覧などを行っている。今後は、できるところから9年間を見通した教育課程の編制に取り組んでいくことが必要となる。

2 実践

活動名	実施日	場所	活 動 内 容
小中連携教育事業準備	4月19日	市役所	御所ヶ丘中、御所ヶ丘小、大井沢小、松前台小の行事計画の確認と情報交換を行った。5月に実施した御所ヶ丘中学校区における避難引き渡し訓練や小中連携事業の実施計画案を作成した。(4校教務主任)また、毎月行われる教育課程研修会において4校の情報交換を行った。
田植え 稲刈り	5月16日 9月12日	立沢里山	「里山を守る会」の方々の協力により、大井沢小、御所ヶ丘小、本校の5年生が立沢里山の水田において田植えを行った。泥に足を取られながら苗を植える作業を通して、児童は米作りの大変さを感じ取ることができた。また、稲刈りの作業を通して、収穫の喜びを十分に味わうことができた。この体験は、3校の児童が御所ヶ丘中学校に進学した後も、貴重な「共通体験」として豊かな心をはぐくむ礎になると考えられる。
御所ヶ丘中学校教諭による出前授業 (数学科)	10月17日 2校時	松前台小学校	御所ヶ丘中学校の巻野先生による算数科の出前授業を、6年生2クラスに対し実施した。内容は、「一次方程式」であった。現在の自分たちの力でも問題を解くことができ、中学校の授業に対する期待をふくらませるものとなった。数学(算数)への興味・関心を高めることもできた。
北守谷地区小中連携情報交換会	11月6日	御所ヶ丘中学校	4校の学校長・教頭・教務主任・6年担任(中学校は学年主任)が集まり、小中連携部会と生徒指導部会に分かれて情報交換を行った。9年間を見通しながら、これまでの交流活動の質を高めていくことが提案された。また、具体的には、学習のきまりや生活のきまりの一貫化、学習指導の一貫化、児童会と生徒会の連携活動等の重要性が出された。
母校ボランティア	11月21日 5・6校時	松前台小学校	母校ボランティアに御所ヶ丘中学校1年生と本校6年生が参加し1年生の体育科の授業(長縄での8の字跳び・ドッジボールを使ったキャッチボール)の支援と2年生の算数科の授業(かけ算)の支援を行った。授業後に、中学生と6年生の情報交換会を行った。中学生から学校生活について情報を得て、児童は中学校生活への期待を高めている様子だった。

入学説明会及び部活動見学	1月25日	御所ヶ丘中学校	御所ヶ丘中学校の入学説明会において、部活動見学をさせてもらった。生徒会役員が運動部や文化部を案内してくれた。ほとんどの児童が入部を希望しており、運動部の人気が高かった。
--------------	-------	---------	--



5年 稲刈り



6年 出前授業（数学科）



1・6年 母校ボランティア



2・6年 母校ボランティア

※ 守谷幼稚園・守谷保育園との保幼小連携



絵本の読み聞かせ



じゃんけん列車

守谷幼稚園・守谷保育園の年長児約25名を松前台小学校へ招待し、学校内を案内したり、1年生との交流会をもったりした。園児達は、絵本の読み聞かせや紙芝居の発表を一生懸命聞いていた。最後にじゃんけん列車のレクを行い、楽しく交流することができた。

3 考察

北守谷地区4校の小中連携の取り組みも10年目を迎え、新しい試みとして小中連携情報交換会がもたれた。今後の取り組みについての方向性が出されたことは大きな成果である。9年間のビジョンを4校職員が共通理解し、今までの交流活動に加え、「学習のきまりや生活のきまりの一貫化、学習指導の一貫化、児童会と生徒会の連携活動、情報モラルやパソコンの操作技能の接続、外国語活動と英語科との接続等」にも取り組んでいきたい。

小中連携推進事業の様々な活動を通して、児童は中学校生活に対する不安を期待に変えた。出前授業において、学習内容の広がりを感じ取ることができ、今行っている学習への意欲を高めた。これからも、進んで学び、よりよく生きようとする豊かな心を育むために、小中の連携、情報交換を図り、交流活動を質の高めていきたい。

小中連携教育の実践

守谷市立松ヶ丘小学校 担当 皆川 彰

1 はじめに

本校では「豊かな心をもち、健康で自ら課題をみつけて学習し、たくましく生きる児童を育てる」の学校教育目標のもと、中学校について児童や保護者が知ることにより、保護者と小学生の中学校生活に対する不安を取り除き、夢と希望にあふれる進学を実現するため生徒指導面や学習面での情報を共有し合い、小中連携の交流活動が進められてきている。この活動を通して児童・生徒が交流活動を「継続的に」行うことで、児童・生徒に生きる力を育むと共に、確かな学力を身につけることを目標に取り組んでいる。

2 実践計画

月 日	内 容	対象者・協力者
5月15日	平成24年度小中連携についての打合せ	けやき台中担当者
6月25日	あいさつ運動	けやき台中生徒会 本校保護者
9月 5日	あいさつ運動反省	けやき台中担当者
10月 9日	母校ボランティア、吹奏楽部鑑賞会打合せ	けやき台中担当者
11月 3日	吹奏学部鑑賞会	けやき台中吹奏楽部
11月 5日	あいさつ運動	けやき台中生徒会 本校保護者
11月27日	母校ボランティア	けやき台中1年生
11月 7日	あいさつ運動打合せ	けやき台中担当者
1月15日	中学校説明会および部活動見学会打合せ	けやき台中担当者
1月25日	中学校説明会および部活動見学会	けやき台中学校
2月28日	出前授業(外国語活動)	けやき台中担当者

3 実践例

(1) あいさつ運動

(けやき台中学校との交流)

本校正門 7時50分から8時10分本校では、職員、5・6年生の代表委員、生活向上委員会の児童、4年～6年生の縦割りのクラスによるあいさつ運動を毎朝行っている。その中で、6月、11月に「さわやかマナーキャンペーン」として保護者、けやき台中学校の生徒会役員、本校児童、本校職員が中心になってあいさつ運動を行った。



保護者、中学生とのあいさつ運動

(2) 吹奏楽部演奏鑑賞会

松ヶ丘まつりにけやき台中学校の吹奏楽部に学校にきてただき演奏を鑑賞した。全校児童が中学生の演奏を聴くことで、大変に貴重な経験をすることができた。また、今年度は中学生と6年生と一緒に演奏したり、中学生の演奏に合わせて小学生が合唱したりする活動を行った。



けやき台中吹奏楽部とのコラボ演奏

(3) 母校ボランティア

本校を卒業した、けやき台中学校1年生が来校して、本校6年生とボランティア活動を行った。また、ボランティア活動の後に昨年卒業した中学1年生から実際の中学校の様子を聞いたり、質問をすることで中学校をより身近に感じる良い機会であった。



中学生とのボランティア活動

- (4) けやき台中学校教諭による
出前授業(英語科)
けやき台中学校の英語科の先生により、本校6年生を対象に中学校1年生の教材を使って出前授業をしていただいた。
6年生は、外国語活動の時間に1年生に補助的に教える活動を進めたりしている。また、中学生に向けて授業から離れて、単語の練習などを進めている。そのため、最初は緊張していたが、授業になれてくると表情も和らぎ集中して授業に参加することができた。



出前授業(英語科)

4 成果と課題

(1) 成果

- ・あいさつ運動では中学生と一緒にいることで、児童が中学校を身近に感じることができた。また、地域の方々にも積極的にあいさつをしていこうとする意欲付けになってきている。
- ・吹奏楽部の演奏鑑賞会では、今年度は6年生とのコラボ演奏や中学生の演奏に合わせての合唱などがあり有意義な時間となった。
- ・中学校の新入生説明会、母校ボランティアでの交流活動では、6年生と中学生の心の絆を深め、夢と希望をもって中学進学を目指す活動になった。
- ・けやき台中学校教諭による出前授業(英語科)では、小中連携では初めての活動であったが中学校で新しく学習する教科であるため興味を持って学習をすすめることができた。

交流活動全体を通して「中学校が楽しみ」「中学校の授業を受けたい」「部活動が楽しみ」など中学校への興味・関心が高まったのではないかと考える。今後も学ぶ意欲、豊かな心を育てることができるよう、さらに交流活動を推進していききたい。

(2) 課題

- ・今年度は中学校の先生が行う英語授業を体験してみることができ中学進学への意欲付けなどになったので、さらに出前授業を進められるようにしていきたい。
- ・学習習慣や家庭学習の進め方などの連携を来年度は進めて行きたい。
- ・ホームページなどを利用して保護者や地域の方々への情報発信を今まで以上に進めていきながら、地域に開かれた学校をより一層進めていきたい。

小中連携教育の実践

守谷市立守谷中学校 担当 荒井 弘勝

1 はじめに

小学校から中学校への進学において、不登校等の中1ギャップに直面するケースがみられる。学習や生活の環境が大きく変わるこの時期、スムーズな適応を図るため小中間の接続は重要なことである。小学校から中学校への接続を円滑化する必要性を認識し、小中連携教育に取り組むことが求められている。特に、小学校高学年から中学校入学後までの期間に着目し、この時期に重点的な取り組みを行う必要がある。小中連携教育の実施により、児童生徒が多く教職員、児童生徒と関わる機会を増やすことで、小学生の中学校進学に対する不安感を軽減する。職員の意識としては、義務教育9年間で児童生徒を育てる発想をもつことが重要である。そのために、各学校間の連携を強化し、小・中学校教職員が一体となって取り組んでいくことが求められる。

小中連携教育の効果として、中学生の不登校出現率の減少、学習到達度、全国学力・学習状況調査における平均正答率の向上、児童生徒の規範意識の高まり、異年齢集団での活動による自己有用感や自尊感情の高まり、教職員の児童生徒理解や指導方法改善意欲の高まり等があげられている。生徒指導面や学習指導面の成果について十分検討し、小中連携教育が目指す教育の在り方について確認していくことも重要である。

そこで、小中連携の意義を踏まえて特色ある教育課程の編成と創意と活力に満ちた学校づくりを推進するため、以下のような取り組みを進めた。

2 実践

(1) 校区小学校（大野小学校、黒内小学校）との連携について

ア 小中連絡会の実施：平成24年6月5日（火）【継続連携】

校区小学校の旧6年担当職員を本校に招いての小中連絡協議会を実施した。中学校に入学して一ヶ月を過ぎてからの様子について、小学校の各先生方には、授業参観を通して中学校進級後の卒業生の様子を見てもらった。その後の連絡協議会では、中学生らしく成長した生徒達の様子についての情報交換をはじめ、小学校時の様子について話し合いを進めることができた。この時期に情報交換をする事は、新入生の生徒理解を深めることに有効であった。

イ 黒内まつりワークショップ：平成24年11月17日（土）【継続連携】

黒内まつりにおいて美術部生徒による「ふわふわ、キラキラ、スイーツデコ」と称した美術活動交流型ワークショップを実施した。FRP樹脂を使ってお菓子のフェイクグッズを作る活動を通して、中学生は設定されたテーマに則って積極的に小学生たちに関わり、小学生も楽しく活動することができた。自分たちの説明を熱心に聞き、作品制作に取り組む小学生との交流活動に充実感を感じていた。活動後に児童から送られた手紙には、「今まで経験した黒内まつりのワークショップで一番楽しかった。」「中学生が優しく教えてくれたので、とてもわかりやすかった。すてきな宝物ができた。」などの意見が多数寄せられた。小学生も、中学生と共に作品制作を行うことで中学生をより身近に感じていた。生徒達が主体的に取り組める小中連携の在り方として、地域の活動を取り入れ、児童参加型の連携を今後も推進していく必要があると考える。



ウ 小中連携美術部作品展示：平成 24 年 12 月～平成 25 年 3 月【新規連携】

校区小学校において守谷中学校美術部員による絵画作品展示を行った。部活動で制作した、第 6 回全国中学校美術部作品展に入選、佳作となった完成度の高い作品など、最大で F 5 0 号にも及ぶ作品を展示した。校区の児童達は、作品の大きさや色遣いに驚き、興味をもって観賞した。小学生に、部活動の一端を作品鑑賞を通して知ってもらうこの取り組みは、中学生になればこんなにも本格的な活動ができるという期待感の高揚につながった。中学生も、自分の描いた作品が後輩の目に触れることで自己有用感が高まり、自分たちの活動が多くの人たちに喜んでもらえたという経験を通して自尊感情を高めることができた。



エ 小中連携新入生学校説明会：平成 25 年 1 月 29 日（火）【新規連携】

守谷市において小中一貫教育が推進される事を受けて、市の特色ある取り組みでもある外国語教育をテーマにした小中連携新入生学校説明会を実施した。生徒会が主体となり、小学生にも理解できる簡単な日常英会話を使って学校生活の様子を紹介した。英会話以外にも、映像も同時に流し視覚的に学校の様子を捉えられるように工夫した。また、インタラクティブフォーラム出場の生徒 2 名による発表もあり充実したものとなった。新入予定の児童からも英語による質問が寄せられるなど、和やかな新入生説明会となった。



オ 守谷中学校区「家庭学習のてびき」活用による学習習慣の確立について【継続連携】

中学生として身に付けるべき家庭学習や授業の学びの在り方を具体的に示す「家庭学習のてびき」の内容を校区小学校に示した。義務教育の 9 年間を見通して家庭学習をはじめとした学習の在り方を共有することをねらいとしている。手引きの内容は、ホームページから自由にダウンロードできるようにし、学校説明会の資料にも中学校 1 年生の学習の仕方を掲載することで学力向上の視点から小中連携を推進できるようにした。

3 成果と課題

小中一貫教育が叫ばれる中、小中連携はますますその重要性を増している。成果として、生徒指導上の成果や学習指導上の成果に加え教職員間の連携の充実につながった。現在は多様な交流活動を通してのイベント的な活動が主体となっているが、今後は、小中相互の学習内容を理解するとともに、学習活動や学習習慣そのものを校区で統一する必要がある。どの学校から入学しても安心して学習に取り組める実質的連携が求められる。児童生徒を支える、我々小中学校の教職員の相互理解を推進し、互いに協力して児童生徒を育てていこうとする意識や協力体制を確立すべきである。小中交流が一過性の内容にならないよう、一つ一つの取り組みを検証し、工夫改善する事で、より実効性のある取り組みとしていかなければならない。そこで、校内研修を充実させ学習の系統性を意識しながら指導計画を立案する事や、中学校入学時の心理的不安を解消し、学校生活に適応できるようにするための小・中学校間の情報共有体制の確立に努める。

物理的な事由から、小学校と中学校の教職員間の交流を十分とることができず、小中学校の接点にいる児童生徒のとらえ方や指導に対する教師間の共通認識を深めるにはまだ様々な課題がある。児童生徒が望ましい学校生活を送るためには、小中学校の教師が互いに生徒指導面あるいは学習面での情報を共有し、共に児童生徒を育てていこうとする意識をもつことが重要である。今後はさらに踏み込んで、9 年間を見通した教育課程を推進し、児童生徒の情操面を豊かにはぐくむ小中一貫教育の在り方を具体的施策と共に取り組んでいく必要がある。

小中（含幼保）連携教育の実践

守谷市立愛宕中学校 担当 中村 進一

1 はじめに

いわゆる「中1ギャップ」の問題から、小中連携の必要性が叫ばれて久しい。本校でも、守谷小学校・郷州小学校の協力をいただきながら、様々な側面で連携に努めてきた。その結果、中1で不登校・不適応を起こす生徒の減少やその状況の軽減化に効果をあげている。本校生徒の話を聞いても、小学校の時に聞いた吹奏楽部の演奏や、学校説明会時の先輩の案内やプレゼンテーションの様子に、あこがれを持って入学してきたことがうかがえる。

小中連携は本校教育課程の中で、重要な位置を占める教育活動である。

2 本年度の主な実践

(1) 小中連絡協議会

ア 第1回 6月14日（木）

本校1年生の小学校6年時の担任の先生に、守谷小・郷州小学校から1名ずつ来ていただき、授業参観と情報交換を行った。まず、6校時には1組社会、2組英語（ALT との TT）、3組国語（学習支援ティーチャーとの TT）の授業を参観した。その後、本校1年職員と教務主任、そして小学校の先生との協議を行った。

小学校の先生方からは、落ち着いて授業に臨んでいる生徒の様子に成長を感じたこと、並びに、生徒が小学校にお邪魔したときに話している内容等の話をいただいた。本校の1年職員からは、小学校時における学習の様子や家庭環境、生徒との人間関係作りに役立ちそうな話題等を質問し、有益な情報を得ることができた。

イ 第2回 平成25年3月21日（木）

平成25年度の新入生に関する情報の共有・引き継ぎを、小学校6年生の担任の先生に来ていただき行った。本市スクールコミュニケーションのファイル室を利用し、共有すべき情報を事前に伝えていただいた。従って、会議時間を有効に使うことができ、細かな引き継ぎを行うことができた。特に、食物アレルギーや既往症等、健康で安全な学校生活を送るために不可欠な情報の引き継ぎに意を用いた。

(2) 器楽練習会の開催

郷州小学校金管クラブと愛宕中学校吹奏楽部の合同練習会を8月24日（金）に郷州小学校において実施した。当日は、郷州小学校の音楽室が児童生徒でいっぱいになり、活気のある練習会となった。



まず、愛宕中学校吹奏楽部顧問2名が各楽器の基礎的な奏法について確認した後、中学生が普段行っている自主的なパート練習の力を活用し、小グループで小学生に金管楽器の基礎練習を指導した。中学生には事前に小学生に対する接し方を指導したが、実際の練習では児童一人一人の課題に応じて細かに指導する中学生の姿があった。

練習会后、中学生からは、「教えることの難しさが分かった」「返事・頷くなどの反応がないと、こちらの言ったことが伝わったのかどうか分からなくて困った」「練習して小学生が上手になると、自分のことのようにうれしかった」といった感想を聞くことができた。

(3) 学校行事への案内

10月20日（土）に実施した本校歌詠祭（文化祭）では、生徒会より学区内小学校の児童に向けて、招待状を出した。昨年までも案内を出していたが、パンフレットのようなものであったので、今年は明確に「招待状」の体裁を整えて参観を促した。

当日は、天候にも恵まれ多くの来校者があった。小学生も本校生徒の弟妹だけでなく（小学生同士で来校し）大勢参観してくれた。歌詠祭のメイン行事は「合唱コンクール」である。中学生

による混声合唱を聴き、あこがれをもつことは、入学後の行事に対する動機付けとしても有効であると考えられる。

(4) 幼児ふれあい体験

10月31日(水)、11月5日(月)、20日(火)にまつやま保育園にて本校3年生が幼児ふれあい体験学習を行った。家庭科における保育学習の一環で、全員が手作りのおもちゃの準備をし、体験学習に臨んだ。どの生徒も丁寧に園児に接している姿が印象的であった。また、事後は体験を基に子育てについて考え、レポートにまとめた。生徒からは、園児の何事にも興味を持つ姿に感心したり、一緒に遊ぶ園児の笑顔で幸せな気持ちになったりした、との感想が聞かれた。



(5) 守小まつりへの参加

11月3日(土)に行われた守小まつりに本校校吹奏楽部が参加し、演奏を披露した。

指揮者コーナーや楽器紹介など、小学生にも興味を持ってもらう工夫を行うことで、小学生・中学生双方にとって、有意義な時間とすることができた。



(6) 計画訪問時の相互授業参観

11月15日(木)、本校計画訪問を学区内小学校職員が参観した。また守谷小・郷州小の計画訪問を本校の職員が参観した。

特に、小学校の計画訪問参観については、本校の若手教員の参考にするため、2～3名の若手教員を派遣した。管理職・ミドルリーダーとともに授業参観したことで、授業のポイントが分かり、公開していただいた授業から多くのことを学ぶことができた。

(7) 新入生・保護者説明会

平成24年1月29日(火)本校において、来年度の本校入学予定者の新入生と保護者を対象に説明会を実施した。

生徒会役員と学級委員が、保護者・小学生を対象に、中学校の学習や生活・行事等について紹介をしたり、1,2年生の授業参観の案内をした。担当の生徒たちは、「どうしたら愛宕中のことをよく理解してもらえるだろう」と考えて、プレゼンテーションのリハーサルを重ね、実物の準備や役割分担の工夫等を行っていた。当日の発表も堂々としており、保護者も生徒の発表に聞き入っていた。また、児童への説明後の質疑応答も活発だった。

このように、説明会において生徒が活躍することは次のような効果が考えられる。すなわち新入生保護者・小学生にとっては、本校生徒の姿を直接見て、話を聞くことで中学校への安心感が持てることである。また、本校生徒にとっては、公式の場で活躍することによる自己有用感の向上や、一人一人の自信につながるといえる。

今後も生徒の活動を加えた説明会を行っていきたい。



3 来年度に向けて

守谷市でも来年度から、(幼)小中一貫教育へのスタートが切られる。本校としても、これまでの連携のあり方を精査し、教育的な意味をとらえ直すとともに、他校の実践も参考にして、学区内小学校とともに、より良い連携、そして一貫教育の取り組みにつなげていきたい。

小中連携教育の実践

守谷市立御所ヶ丘中学校 担当 巻野 正

1 はじめに

現在の形の小中連携教育をはじめて10年目となった。活動も定着し、日常の教育活動の感覚で実践がなされている。来年度は、守谷市も小中一貫教育へのステップが踏み出されようとしている。

そのような中で、今までの実践を継続しつつも、改善点を見いだして「中1ギャップの克服」を目指した実践を行ってきた。

2 実践のねらい

- 児童・生徒の交流活動、教職員の交流活動を「継続的に」行うことを通して、児童・生徒の学習に対する興味・関心を高め、学ぶ意欲を育てるとともに、豊かな心をはぐくむ。
- 交流活動を通して、中学校（生徒の様子、授業の様子、施設、中学校の先生など）について児童や小学校保護者が知ることにより、保護者と小学生の中学校生活に対する不安を取り除き、夢と希望にあふれる進学を実現する。
- 「中一ギャップ」の克服を目指し、交流活動を通して学びの連続性を保ちつつ小中の円滑な移行を実現する。

3 実践のポイント

- 「交流の継続性」を重視した活動内容・交流方法の検討
 - ・小学校3校の地理的条件（1校が隣接、2校が遠距離）を考慮した実践
 - ・連携のために特別に年間のカリキュラムを組み直したり、大きな負担を児童・生徒・教職員に強いたりすることのない実践
 - ・同じ実践をより合理的・効率的に行う工夫
- 学ぶ意欲を高める交流活動の在り方
 - ・中学校教師による出前授業
 - ・中学生の作品等の学習成果の活用（総合学習レポート、美術作品の展示）
- 豊かな心をはぐくむ交流活動の在り方
 - ・小・中合同授業（吹奏楽部の演奏） ・ 母校ボランティア活動
- 夢と希望にあふれる進学を実現する交流活動の在り方
 - ・中学校教師による出前授業
 - ・小学校保護者への授業公開 ・ 学校説明会、部活動見学会
- 「中一ギャップの克服」の実現に向けた活動内容・交流方法の検討
 - ・母校ボランティアの際に中学1年生が小学6年生との対話の時間を持ち、部活動や学校の様子を紹介したり質問に答えたりすることで、中学校生活への不安の除去と期待を高めるようにする。

4 活動の概要

- 中学校教師による出前授業
 - ・数学科の出前授業 （大井沢小）



○ 中学校での授業体験

- ・理科の授業体験（本校にて：御所ヶ丘小）



○ 吹奏楽部の小学校での演奏会（大井沢小）



○ 母校ボランティア

- ・長縄の活動（御所ヶ丘小）
- ・学習ボランティア（松前台小）
- ・中学校紹介（大井沢小）



5 成果

○ 学ぶ意欲を高める交流活動に関して

- ・中学校教師による出前授業（算数・数学科，理科），中学生の総合学習レポートの展示，中学生の作品（美術）の展示を無理なく実施できた。例年行っている活動であるので，小学校側でも趣旨を共通理解できておりスムーズな活動が展開された。御所ヶ丘小学校は隣接しているため，本校の理科室にて理科の授業体験を行うことができた。
- ・出前授業では，中学校の内容を小学生向けにアレンジし，わかりやすく行えた。中学の内容であるが自分たちで解けたことで，中学校進学への不安感が解消できたとともに，中学校への期待がふくらんだようであった。

○ 豊かな心をはぐくむ交流活動に関して

- ・吹奏楽部による小学校での演奏活動，母校ボランティア活動が無理なく実施できた。
- ・母校ボランティアでは，学習ボランティア，中学校紹介などの活動を実施した。大縄とびを一緒にしたり，かけ算九九を聞いてあげたりする学習ボランティアを実施した。小学生にとっては中学生との様々なふれあいや情報を提供してもらい，中学校についての理解を深めることができた。中学生にとっても，母校に帰っての活動をする事で自分の成長を実感する機会となり，有意義であった。

○ 夢と希望にあふれる進学を実現する交流活動に関して

- ・年3回の学校公開日には小学校保護者へも案内を出し，中学校の様子を参観してもらう機会を設置した。毎回数人ではあるが参観をしてくださるとともに，新年度転入予定の保護者も来校するなど，交流の継続が大切であることを実感した。新入生説明会は保護者の説明の間に部活動の見学を実施した。生徒会役員の案内で行ったが，どの児童も部活動への興味が高く，翌日（土曜日）や翌々日（日曜日）の活動を見に来た児童もいた。

6 今後の課題

本年度は，小中連携の中学校区における連絡会が実施できた。次年度は，各学校に共通な部会を立ち上げ，部会ごとの係を固めることなど具体的な活動を，より多くの教員が関わる中で実践していきたい。関係内容も，学習面だけでなく，心の育成や生徒指導面の関係も固めていきたい。

小中連携教育の実践

守谷市立けやき台中学校 担当 池田みゆき

1 はじめに

平成24年度の中学校での新学習指導要領の全面実施を迎えて、児童・生徒の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」などの「生きる力」を育むため、小・中学校がそれぞれの役割をしっかりと果たすと同時に、義務教育9年間の発達や学びを確保する小・中学校の連携が重要となっている。

本校は高野小学校と松ヶ丘小学校の二校の卒業生が入学してくる。本年度も小中連携事業を実施した。小学生が中学校に対して抱く不安を取り除き、期待とやる気を膨らませることが「連携」の大きな目的の一つである。小学生は、中学生を見てあこがれを抱き、中学生は小学生を慈しみ模範を示すような機会としたいものである。今後も可能な限り、様々な工夫した活動を通して、多くの児童が夢と希望を胸に中学校に入学してくれることを期待して継続していきたい。

2 実践

(1) 小中合同あいさつ運動

	第1回小中合同あいさつ運動	第2回小中合同あいさつ運動
日 時	10月29日(月) 7:50~8:10	1月21日(月) 7:50~8:10
場 所	高野小学校(プール側門付近) 松ヶ丘小学校(正門付近)	高野小学校(プール側門付近) 松ヶ丘小学校(正門付近)
参加者	小学校代表児童 職員 中学校中央委員, 職員	小学校代表児童 職員 中学校中央委員, 職員
内 容	生徒の代表者と職員が、高野小学校、松ヶ丘小学校に出向き、小学生と一緒に登校時にあいさつ運動を行った。	



(2) 吹奏楽部演奏会

	高野小学校	松ヶ丘小学校
日 時	7月12日(木) 14:40~15:30	11月3日(土) 9:00~9:40
場 所	高野小体育館	松ヶ丘小学校体育館
参加者	高野小4, 5, 6年生 保護者 吹奏楽部生徒, 職員	松ヶ丘小全校児童 保護者 吹奏楽部生徒, 職員
内 容	吹奏楽部の生徒が高野小を訪問し、アンサンブルやポップス、コンクール曲などを演奏した。小学生も指揮をするなど、楽しい音楽を通しての交流ができた。	松ヶ丘小の「松小まつり」の中で吹奏楽部の演奏を発表した。小学生と一緒に演奏する場面を設け、大音量で迫力ある楽しい演奏会となった。



(3) 母校ボランティア

日 時	1 1 月 2 7 日 (火) 1 3 : 5 0 ~ 1 5 : 3 0	
場 所	高野小学校	松ヶ丘小学校
参加者	小学校：6 年生 中学校：1 年生 小中学校担当職員	小学校：6 年生 中学校：1 年生 小中学校担当職員
内 容	中学 1 年生が出身小学校へ出向き、小学校 6 年生と一緒にボランティア活動(清掃など)を行い交流する。また、中学校の様子をグループごとに発表したり、小学生からの質問に答えるなど交流会を行った。	



(4) 小中連絡会

日 時	6 月 1 8 日 (月) 1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 3 0	
場 所	けやき台中学校 教室及び会議室	
参加者	高野小学校、松ヶ丘小学校：旧 6 年担任、生徒指導担当 けやき台中学校 1 年担当職員	
内 容	小学校職員による中学校授業参観、小中の職員による生徒指導上の情報交換を行った。中学校での実際の姿を見ていただき、また話し合いの中で学習や生活の様子を伝え、卒業時の引き継ぎ事項について再確認ができ、意義ある連絡会ができた。1 年生も恩師との再会を喜んでいた。	

(5) 新入生学校見学・説明会

日 時	1 月 2 5 日 (金)	
場 所	けやき台中学校体育館	
参加者	高野小学校、松ヶ丘小学校：6 年生、担当職員 けやき台中学校：生徒会本部役員・中央委員、吹奏楽部員、2 年代表生徒 1 年 4 組生徒、担当職員	
内 容	生徒会役員の司会進行による見学・説明会を開催した。2 年生による学校の特色や行事などの説明、1 年 4 組生徒による合唱、吹奏楽部の演奏を行った。また、生徒会役員の案内による部活動見学を予定していたが、悪天候のため部活動紹介に変更し、全ての部活動が新入生の前で活動の様子を紹介した。その後、一部の部活動の見学を実施した。	

(6) 小学校への出前授業

日 時	2 月 2 8 日 (木) 2 ・ 3 ・ 4 校時	
場 所	松ヶ丘小学校	
参加者	松ヶ丘小学校 6 年生 3 クラス、中学校英語教諭、小学校 6 年担任、ALT	
内 容	小学生の英語教育は、「聞く」活動が中心なので、アルファベットを取り入れて書かせたり、ゲーム感覚で英語を楽しむ活動を取り入れた。	

3 考察と課題

計画された事業について小学校の協力を得てすべて実施できた。今年度は、昨年度までの活動に加えて、上記(6)の小学校への出前授業を実施した。手始めということで、まずは松ヶ丘小学校だけとなった。来年度、高野小学校でも実施する場合は、今年度の活動をよく分析し、より効果的に行えるよう、小学校と中学校の職員の十分な話し合いと準備が必要である。

また、小学校と中学校の職員間の交流活動や、道徳も含めた相互の授業参観など、職員も学び合いながら互いに理解を深める活動をさらに模索していきたい。延いては、そのことが、それぞれの生徒指導や学習指導にも生かされていくものと思われる。